

事例番号:280106

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 6 日

12:30 陣痛発来のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 40 週 0 日

14:05 オキシトシン注射薬で陣痛促進開始

21:13 経膈分娩

胎児付属物所見 羊水混濁 I 度

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:40 週 0 日

(2) 出生時体重:2978g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH 7.301、PCO<sub>2</sub> 46.0mmHg、PO<sub>2</sub> 15mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 22.7mmol/L、BE -4mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 6 ヶ月 頸定まだみられずやや低緊張気味、あやし笑いや追視あり、

## 運動発達遅延と判断

生後 8 ヶ月 頸定未、うつ伏せで首はおこす、寝返り未、全体的に低緊張

### (7) 頭部画像所見:

生後 7 ヶ月 頭部 MRI で硬膜下水腫を認めるがその他は正常、分娩期の低酸素虚血性脳症を示す所見は認めない

1 歳 7 ヶ月 頭部 MRI ではっきりした異常は指摘できない

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名、内科・外科・小児科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 4 名、看護師 2 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に異常は認められず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 陣痛開始のため入院としたことは一般的である。

(2) 入院から見娩出までの管理は一般的である。

(3) オキシシリンによる陣痛促進について投与開始量、投与量の増量、間隔は一般的であるが、文書による説明・同意を得ていないことは一般的ではない。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

出生から退院までの新生児の管理は一般的である。

#### 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

本事例は、脳性麻痺発症の原因や発症時期を特定することが困難であり、このような事例についての疫学調査や病態研究は行われていない。事例集積を行い、その病態についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

原因を特定することが困難な脳性麻痺症例の発症機序解明に関する研究促進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。